

特定非営利活動法人

# フリースクール全国ネットワーク

## 【2015年度 事業報告書】

2015年4月1日～2016年3月31日

特定非営利活動法人フリースクール全国ネットワーク  
〒114 - 0021 東京都北区岸町1 - 9 - 19 コーエイビル  
TEL&FAX : 03 - 5924 - 0525

## 2015 年度事業報告及び決算に関する事項

2015 年 1 月にスタートした「文部科学省フリースクール等に関する検討会議」、超党派の議員連盟による立法活動のスタートなど、政府・国会がフリースクール等の法的な位置づけと公的支援のあり方について本格検討が始まり、フリースクール等の学校外の子どもの居場所に大きな注目が集まった一年となった。

文科省の検討会議では代表理事の奥地が委員に選任され、議員連盟による立法活動でも、各党による独自の会合も含め、ヒアリングを受ける、意見書の提出をする、また院内集会を開催するなどの活動を通じ、その存在を認知され、一定の発言力を得たことは大きな成果と言える。

また、法案の検討を通じ、全国夜間中学校研究会、登校拒否・不登校問題全国連絡との交流もあった。マスコミによる取材と報道、一般（保護者）、フリースクール等の運営者、研究者からの問い合わせはいずれも例年より増加し、加盟団体数も 13 団体増の 87 団体に達する等知名度も大きく向上した。

立法活動の開始と市民・関係団体からの法案への不安と懸念の声を受け、急遽全国 9 か所での法案について学ぶ「全国キャラバン」を開催。その後も関東・関西を中心に「たよまなカフェ」を実施し、法案について一定の理解を得るとともに、各地で新たなつながりを得ることもできた。

一方、キャラバン開催経費（交通費・会場費・人件費）の寄付募集には失敗、決算は大きな赤字となったこと。また、業務量の増加、文部科学省委託事業費の削減による人件費予算の減額なども影響し、フリースクール等に対する注目の高まりを交流事業・研修事業等への参加者増に結びつける体制を取れなかったことは、次年度以降の課題となった。

### A. 運営に関する事項

#### (I) 主な会議の開催

- ①総会の開催 : 2015 年 6 月 28 日 於・東京シューレ王子
- ②理事会の開催 : 2015 年 6 月 28 日（東京）、10 月 4 日（東京）、  
11 月 28 日（東京）、2016 年 2 月 6 日（東京） 計 4 回開催
- ③事務局会議 : 毎月 1 回定例開催
- ④その他 : 多様な学び保障法を実現する会運営会議を月 1 回開催、同事務局会議、  
役員会、各種実行委員会を適宜開催。

#### (II) 会員状況(2016 年 3 月 31 日現在)

- ①正会員 : 46 団体
- ②支援会員 : 75 団体名
- ③会員状況 : 正会員は 2 団体入会、支援会員は 11 団体 5 名の新規入会。  
フリースクール等の団体は合計 87 団体と、例年のない増加となった。

### (Ⅲ)基盤整備について

- ・2014年度に引き続き、事業ごとに適宜アルバイトを雇用、またボランティアの受け入れも積極的に行い、業務量の増加に対応した。しかし、年度後半には作業スペースの確保が課題となることもあった。
- ・「ふくしまの子ども支援協議会」事務局受託の終了に伴う新規事業開発は行わず、立法活動・政策提言活動に注力する一年となった。合計18団体名の会員増はその成果と言え、新規事業開発とは違う方向での基盤整備が進む一年となった。

### (Ⅳ)事務局の体制

開室： 毎週平日 9:30~18:00

職員体制： 事務局長 1名 松島裕之（有給・常勤）

事務局員 5名 朝倉景樹、安美留久見子、力石みのり、  
中村国生、藤田岳幸 適時協力

※事務局会議は、上記のメンバーと奥地圭子、江川和弥両代表理事の出席の下で行った。

### (Ⅴ)他機関との関係

- ① 「多様な教育機会確保法」の意義を周知するための「全国キャラバン」を全国9ヶ所で開催、会場の確保、広報等について、開催地付近のネットワーク加盟団体、フリースクール等団体、不登校の親の会の協力を得た。
- ② 登校拒否・不登校を考える夏の全国大会 in 山口・宇部を、NPO 法人登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク、山口県内のフリースクール、不登校の親の会、等、宇部フロンティア大学からなる現地実行委員会と協力して開催した。
- ③ 多様な学び保障法を実現する会の運営を通じ、シュタイナースクール、サドベリースクール、ブラジル学校、インターナショナルスクール等の実践者ともつながりを深める事ができた。2016年2月には、早稲田大学喜多研究室も協働で「多様な学び実践研究フォーラム」も開催した。
- ④ 2016年2月27,28日開催の「全国若者・ひきこもり協同実践交流会」の特別分科会パネラーとして代表理事2名が参加。「多様な教育機会確保法」について、若者支援の分野で活動する実践者や、登校拒否・不登校問題全国連絡会の関係者と対話を行った。
- ⑤ 「多様な教育機会確保法」に関連し、全国夜間中学校研究会主催の集会・勉強会にも参加、(昼間の)学校において学習の機会を得られなかった人の学習権を保障する取り組みとして、相互理解を深めた。
- ⑥ フリースクールフェスティバル2015を加盟フリースクールと協力して開催した。

助成金	TheBodyShop ニッポン基金（フリースクールフェスティバル 30万円） 電通育英会（フリースクールスタッフ養成連続講座 in 山口 50万円）
委託事業	文部科学省（いじめ対策等生徒指導推進事業 120万円）
寄附金	プレジャーワークス（BOOK募金） 他、個人多数

## B. 事業および活動に関する事項

### (I) ネットワーキング事業

- ① 第8回JDEC（日本フリースクール大会）と多様な学び実践研究フォーラムの同時開催  
今年で8回目を迎えるJDEC（日本フリースクール大会）は、多様な学び保障法を実現する会の「多様な学び実践研究フォーラム」と同時開催とし、フリースクールだけにとどまらない多様な学びの実践者、当事者（子ども・保護者）に加え、研究者も参加して実践研究を行った。

ネットワーク加盟団体からの参加は微増であったが、加盟外のフリースクール、オルタナティブスクール、チャイルドラインやプレイパーク等の子ども支援団体からの参加者は激増し、参加実数も約300名と例年の約3倍となった。

なお、開催の成果は「記録集」として形に残し、今後の多様な学びの質の保障に活用していく予定である。

開催日	2016年2月6日～7日
参加人数	297名
開催場所	東京都新宿区 早稲田大学戸山キャンパス
参加団体	札幌自由が丘学園、漂流教室、石巻フォルケ、寺子屋方丈舎、ビーンズふくしま、フリースクール青い空、りんごの木、ネモネット、文化学習協同ネットワーク、東京シューレ、東京シューレ葛飾中学校、共生と共育ネットワーク、たまりば、子どもサポートチームすわ、三重シューレ、デモクラティックスクールまんじえ、聖母の小さな学校、みなも、箕面こどもの森学園、ふおーらいふ、ヒューマン・ハーバー、クレイン・ハーバー、スクール・ピア、珊瑚舎スコーレ。他、会員外フリースクール等38団体、その他研究者、個人が参加。

- ② フリースクール等における在宅支援を含めた個別支援の実践交流研修事業の実施  
文部科学省「いじめ対策等生徒指導推進事業」の委託を受け、フリースクールでの不登校の子どもの支援活動の内容を可視化するための「実践交流研修」と、その際のテキストとなる「実践事例報告集」を作製した。「実践事例報告集」は、それぞれの活動に独自性を持ちながらも、大切にしている理念や入会の際の手続き等では多くの共通点もみられ、今後「フリースクール」が子どもの学習権を保障するための機関として社会的に信頼を得ていくための研究の第一歩を踏み出すことができた。
- ③ ふくしまの子ども支援協議会の事務局受託  
当初の予定通り、2015年9月まで「ふくしまの子ども支援協議会」の事務局委託を受け、県内子ども支援団体の若手スタッフの研修事業をサポートした。2年間で延べ28名のスタッフの育成支援を行い、福島県内はもとより、宮城、山形など東北の子ども・若者支援団体との交流のきっかけともなる2年間だった。
- ④ フリースクール設立・運営支援  
2015年度は、学習塾などからフリースクールへの転身を図ろうとする団体からの問い合わせが引き続き多くあった他、子どもの貧困対策推進法に基づく学習支援を行う団体、プレイパーク等の団体からの具体的な相談も複数受けることとなった。

⑤ 情報発信

- ・「多様な教育機会確保法」立法のための「立法チーム」「議員連盟総会」等を傍聴、陪席。検討の進捗とともに、新法制定の意義、フリースクール等の民間団体がどのように法律を捉え、活用していくべきかを発信した。
- ・文部科学省の主催する「フリースクール等に関する検討会議」「不登校に関する調査研究協力者会議」の二つの会議を毎回傍聴、会員向けに簡易な記録メモと当日配布資料を発信した。
- ・ニュースレターを3回発行し、団体の活動を季節ごとにまとめ、報告。会員団体に加え、近隣のNPOセンター等にも配布した。

(II) 交流イベント事業

① 不登校・登校拒否を考える夏の全国大会の開催

NPO 法人登校拒否・不登校を考える全国ネットワークとの共催で山口県宇部市にて開催。会場は宇部フロンティア大学の協力を得て無償で提供、フロンティア大学の学生、スタッフがボランティアで関わってくださり、子どもプログラムは「プチエステ体験」や「茶道」「グランドゴルフ」「おもしろ心理学講座」など例年とは違う趣向のプログラムも実施できた。

2014 年度大会の記録集発行も予定通り行い、2016 年 3 月時点で\*\*冊を頒布している。

開催日	2015 年 8 月 22 日～23 日
参加人数	約 300 名
開催場所	山口県宇部市 宇部フロンティア大学（メイン会場） ホテル COCOLAND 宇部（宿泊）
参加団体	TEDIC、寺子屋方丈舎、りんごの木、東京シューレ、東京シューレ葛飾中学校、僕んち、ネモ、三重シューレ、フォロ、みなも、ふおーらいふ、スクールピア、AUC、NEST、ハッピービバーク、クレイン・ハーバー他不登校の親の会、加盟外フリースクール等多数。

② フリースクールフェスティバル 2015 の開催

TheBodyShop ニッポン基金の助成を受け、フリースクールフェスティバル 2015 を開催した。例年通り子ども実行委員会を中心としたプログラムを実施、模擬店やフリーマーケットも大々的に開催し、売り上げの一部も開催費として子どもの活動費に充当した。フリースクールや不登校に関する無料相談コーナー、フリースクールに通う子どもが相談の受け手となる「子どもそうだんコーナー」は今年も継続して実施、多様な教育機会確保法について話し合う他、シュタイナー学校やサドベリー学校等の活動も紹介する「たよまなカフェ」も実施した。

開催日	2015 年 11 月 28 日
参加人数	約 600 名
開催場所	東京都葛飾区 東京シューレ葛飾中学校
参加団体	参加団体数：16 団体（当日来場しての活動紹介など） 34 団体（ポスター展示など） 実行委員会参加団体

	東京シューレ、東京シューレ葛飾中学校、りんごの木、ネモネット
助 成	TheBodyShop ニッポン基金

### (Ⅲ) 研修事業

#### ① フリースクールスタッフ・不登校支援者「研修・養成」講座の開催

文部科学省委託事業とも連携し、フリースクールスタッフ養成・研修講座を開催した。今年のプログラムは、これからフリースクールに関わりたいと考えている人、あるいはフリースクールで働き始めてから日の浅い若手スタッフの養成・研修に特化したプログラムとし、ワークショップや参加者によるプレゼンテーションなど、参加者に声を出してもらうプログラムを多く実施した。また、震災や子どもの貧困などについて学ぶプログラムも実施した。

開催日	2015年10月3日～4日
参加人数	52名
開催場所	東京都北区 北とびあ

#### ② フリースクールスタッフ・不登校支援者養成連続講座 in 山口・宇部

公益財団法人電通育英会の助成を受け、宇部フロンティア大学にてスタッフ養成連続講座を開催した。夏の全国合宿の実行委員会とも絡め、現地のフリースクール親の会とともに、全国合宿にボランティアとして参加していただく学生たちに不登校についての基本的な理解をしていただくことを重視しての開催となった。

全3回の講座には、宇部フロンティア大学の学生、現地実行委員会に参加するフリースクールのスタッフ、親の会メンバーに加え、福岡や広島ของフリースクール、子ども支援団体の参加もあり、新規入会にも繋がった。

開催日	2015年7月20日、8月16日、9月6日
参加人数	57名（内30名は宇部フロンティア大学学生）
開催場所	山口県宇部市 宇部フロンティア大学
協力団体	宇部フロンティア大学
助 成	公益財団法人電通育英会

#### ③ 正会員・支援会員団体が開催する研修等への協力・共催

クレイン・ハーバーによる「九州フリースクールスタッフ養成講座」、寺子屋方丈舎・ビーンズふくしま等による「合同研修」に理事、事務局が参加した他、「多様な教育機会確保法」に関する情報・資料提供を行った。

### (Ⅳ) 国際交流事業

#### ① IDEC（世界フリースクール大会） in フィンランド 2015 参加報告会の開催

IDEC2015がニュージーランド南島ネルソン市で開かれた。ニュージーランドは先住民のマオリの文化と移民の文化を尊重した多文化社会を実現することを目指しているが、この大会も先住民の文化と民主的・教育的な教育をテーマとした大会として開催された。開催実行委員にもマオリのメンバーがおあり、会場もマオリの居留地につながる公共施

設を使った。この大会の報告会をフリースクールフェスティバルで2015年11月28日に開いた。10人ほどの参加者だったが、熱心な質疑応答がなされた充実した報告会になった。

日 時	2015年11月28日(土)
会 場	東京シューレ葛飾中学校(フリースクールフェスティバル内)
報 告 者	朝倉景樹

## (V) 調査研究・政策提言事業

### ① 国・政府のフリースクール支援検討への対応

2014年度よりスタートした「フリースクール等に関する検討会議」「不登校に関する調査研究協力者会議」を傍聴、記録の発信を行った。双方の会議とも、議員立法の動きも影響し、2016年度まで議論を継続することが決定している。

また、フリースクール等検討会議では、「多様な学び保障法」の流れから提言を続けてきた「フリースクール同士の相互認証による支援の質の担保」の可能性についても、国内の他分野での取り組み、海外の事例が報告されるなど、検討がスタートしている。

### ② 多様な学び保障法立法の推進

2015年5月よりスタートした「多様な教育機会確保法」立法に向けての取り組みは、一度は「個別の学習計画」に基づき、学校以外の場で保護者の「就学義務の履行」ができる法案となったものの、与野党の賛同を得られず法案の再検討となった。

2016年2月からは、就学義務の履行はあくまでも学校で行うこととなるが、同時に学校以外の場での学習活動の重要性を尊重し、休養の必要性も認めながら支援や情報提供を行う「義務教育の段階に相当する普通教育の機会の確保に関する法律案」の検討が開始され、3月30日時点では各党での検討がなされ、自民党はこの法案を了承したという状況である。

### ③ フリースクールの状況把握のための経年調査

フリースクールの活動や財政状況などについてフリースクール全国ネットワークの参加団体を対象に毎年行っているフリースクール基本調査を2015年10月から2015年2月にかけて行い、47団体、50活動場所からの回答を得た。

2015年度より、文部科学省も「フリースクール等に関する実態調査」を開始したが、フリースクール全国ネットワーク独自調査の意義もまだまだ高いため、今後も継続して調査を行う予定である。

### ④ 学校外の学びを応援する法律をつくろう！全国キャラバンの開催

「多様な教育機会確保法」の意義や活用方法を全国に周知するためのキャラバンを2015年8月から9月にかけて、全国9ヶ所で開催した。現地の加盟団体や不登校の親の会の協力を得ての開催し、約550名に情報を届け、意見交換を行う事ができた。

経費については、オンライン寄付サイトREADYFORを通じた寄付募集をおこなってきたが、寄せられた金額が当初設定した目標金額に届かず、READYFORの仕組み上、全額フリースクールネットワークが自己負担することとなった。

開催日	開催地域	協力団体
8月5日	三重県津市	三重シュール
8月8日	宮城県仙台市	アスイク、TEDIC、他
8月31日	東京都千代田区	東京シュール、越谷らるご、他
9月2日	北海道札幌市	北海道フリースクール等ネットワーク、他
9月5日	長崎県長崎市	クレイン・ハーバー
9月5日	福岡県福岡市	函館自由学舎えすぺらんさ
9月8日	大阪府大阪市	ふぉーらいふ、神戸フリースクール、他
9月13日	長野県上田市	NPO 法人子どもサポート上田
9月14日	沖縄県那覇市	珊瑚舎スコーレ

⑤ たよまなカフェの開催

2015 年末より、法案のことのみにとらわれず、多様な学びについて考える「たよまなカフェ」を毎月開催。小規模ながらも普段考えていること、疑問に思ったことなどを気兼ねなく話せる場所として、東京都（北区、葛飾区、渋谷区、新宿区）、宮城県（仙台市）、兵庫県（明石市、姫路市）など、全国 7 ヶ所で開催、約 120 名と意見交換を行った。

⑥ その他、法案周知の取り組み

全国キャラバン、たよまなカフェの他にも、「多様な学び保障法を実現する会」との合同で様々な取り組みを行った。6月16日には衆議院議員会館にて「院内集会」を、10月20日には「多様な教育機会確保法 ここまで来た！報告会」など、前述の「全国キャラバン」「たよまなカフェ」も合わせれば、2015 年度だけでも 1500 名を超える人に向け、法案についての情報発信、意見交換を行った。